

DATA FILE



等軸晶系

名前	PYRITE (パイライト) / 黄鉄鉱
化学組成	FeS ₂
色	金色、黄色など
光沢	金属光沢
蛍光	なし
条痕	黒色、緑色がかった黒色
劈開	なし
断口	貝殻状
硬度	5
比重	6.5

パイライト (黄鉄鉱)

PYRITE

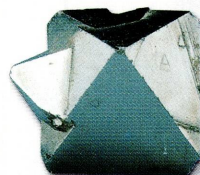
ハンマーなどでたたくと火花が飛び散るので、古代ギリシャでは火をつける道具として利用していた。鉱物名のパイライトはギリシャ語で「火花」という意味の言葉に由来している。

黄鉄鉱の最大の特徴である金属光沢があらわれている。

イタリアのエルバ島でとれた黄鉄鉱の結晶。

外見が自然金によく似ており、間違えられることがあるが、素焼きの陶板にこすりつけると、自然金は金色の条痕が残るのに対し、黒色や緑色がかった黒色の条痕が残るため区別することができる。

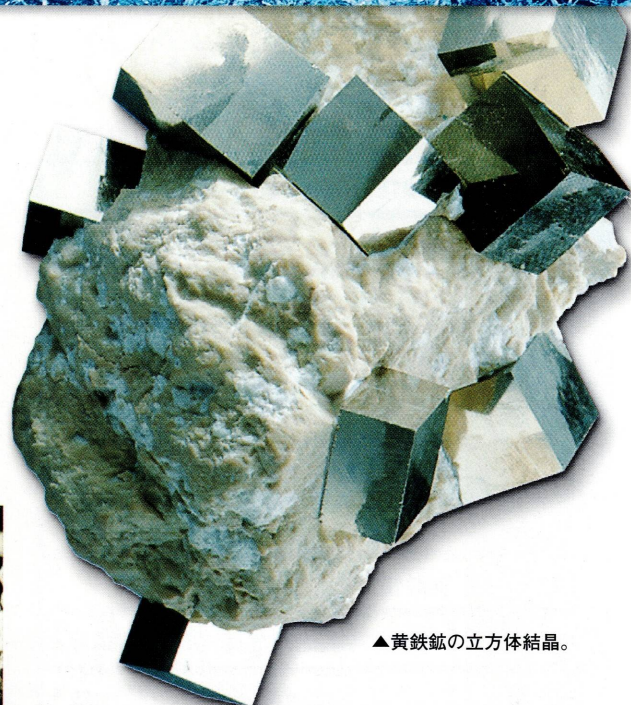
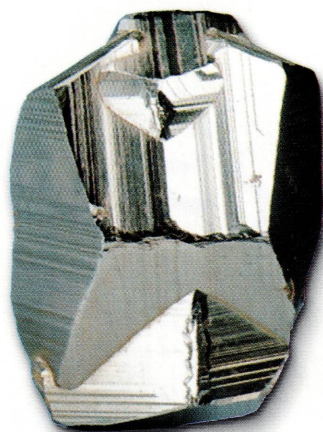
立方体や八面体、十二面体のほか、五角形が12個集まった五角十二面体になることが多い。



保存方法

湿気の多いところでは、硫酸などの化合物に変化しボロボロになってしまうため、密閉できる容器に乾燥剤を入れて保管する。

▶ 双晶している
黄鉄鉱の結晶。



▲ 黄鉄鉱の立方体結晶。

ハ パイライト (黄鉄鉱)



▲ イタリアで産出した黄鉄鉱。

主な産地



スペイン



人工的につくられたかのような立方体の結晶が産出することで有名。

日本



秋田県の阿仁鉱山が有名で、五角十二面体のものが多く産出した。そのほかに宮城県の下谷鉱山、石川県の尾小屋鉱山、秋田県の小坂鉱山などからも見つかっている。

鉄と硫黄の硫化物

黄鉄鉱は、世界中に広く見られる鉄と硫黄の硫化物で、かつては硫酸や鉄の原料に用いられていた。普通は立方体をしているが、八面体や十二面体、五角十二面体になることも多い。この五角形の面はとくに、「黄鉄鉱面」と呼ばれる。また、双晶も多く見られるのが特徴だ。

愚者の金

黄鉄鉱は外見が金によく似ているため、間違えられることが多い。しかし、金よりも軽くてもういっしょに、産出量も多く、価値が低いので、「愚者の金」と呼ばれることがある。



▲ 立方体の結晶が複数くっついた黄鉄鉱。